

# 道徳通信

No.7 2022年(令和4年)6月24日(金)



学習日：6月23日(木) 内容：「ごめんね、おばあちゃん」

主人公の「ぼく」は、耳が遠くなり体も不自由になって何かと失敗する祖母のことを、母や妹とともに「家族の心配の種」として、祖母の気持ちを考えずにきつく当たってしまう。そんな「ぼく」だが、祖母の入院をきっかけに、小さいころに優しく育ててくれた祖母の愛情を思い起こす。「ぼく」の気持ちを考えさせることを通して、家族の在り方について考えていきたい。

## 【生徒の考え】 授業後に考えたこと、感じたこと

今の不自由がない生活を当たり前だと思わず、小さなことでも日頃から「ありがとう」を言っていきたい。

イライラすることがあっても、冷たい態度を取るのではなく、素直に謝ることができるようになりたい。

習い事に送ってくれていることや、お弁当を作ってくれていることへの感謝を試合の結果で伝えたいと思う。

小さなことでもありがたい気持ちを伝えたり、手伝いをしていきたいと思う。

日々を大切にしていく。当たり前だと思わず、すべてのことに感謝していきたい。

大人になってから、いろいろなところに連れて行ったり、一緒に出かけたりできたらいいなと思います。

少しでも親の手伝いなどをして、日頃の感謝の気持ちを伝えていけたらと思います。

失って初めて気づくことがあります。例えば、クラスメイトや部活の仲間は当たり前のように毎日学校で会い、共に生活をしています。しかし、毎日やってくると思っているそんな日常も、実は卒業するまでだったりします。卒業する時に「あの時あんなことを言わなければ」と後悔してほしくありません。今日したことをリセットできないと肝に銘じ、1日1日が大切な1日であると自覚しながら、学校生活を送っていきましょう。